

何を備えたら良いかわからない、手間がかかって面倒…という皆様向けに、大規模災害発生時に優先順位が高く、地域防災ステーションとして機能できる備蓄品をパッケージにしました。ぜひご活用ください。

木耐協推奨パッケージ



※パッケージの内容物は変更になる可能性があります

【内容物一覧】

- | | | | | |
|-----------|--------------------------------------|--|----------------|-------------|
| 《備蓄品》 | ● 非常用電池(6個) | 水やガソリンを必要とせず、空気だけで発電する非常用電池。100V電源とUSBポートが2口ずつ利用
できるため、投光器やテレビも利用可能。携帯電話ならこの非常用電池1個で1度に50台程度充電可能。 | | |
| | ● 非常用トイレ(400回分) | 排泄後の臭いが問題になる非常時のトイレですが、特殊技術で臭いを外に出さない非常用トイレを選び
ました。そのため不快感がなく、安心して利用できます。 | | |
| | ● トイレ用ミニント | ● 簡易便器 | ● 臭わないゴミ袋 | ● テント(横幕付き) |
| | ● ブルーシート | ● 投光器 | ● ラジオ(AC・電池両用) | ● 浄水器 |
| ● 感震ブレーカー | ● 救急用品 | ● 油圧ジャッキ | ● 折込のこぎり | |
| ● パール | ● ボルトカッター | ● ロープ | ● 軍手 | |
| 《ツール》 | ● 地域防災マニュアル
(事業者向け) | 自社の防災力を高めるために必要なことをまとめた24ページフルカラーのマニュアル。 | | |
| | ● 地震防災ガイドブック
(消費者向け) | お客様や近隣の方々へ配布するガイドブック。自社が防災ステーションであることをPRしましょう。 | | |
| | ● 消費者向けDMツール
「まもりとそなえ」
(12か月分) | 毎月、お客様へのアプローチが行えるように、営業用ツール「まもりとそなえ」をご用意いたします。
継続配布することで、自社の認知度を格段にアップでき、お客様から相談がいただけます。 | | |
| ● のぼり2種 | ● 防災関連書籍 | ※地域防災スタッフジャンパー(別注文) | | |

事前防災で地域に貢献しましょう！

木耐協の新プロジェクト

まちと家とあなたを守る



地域防災ステーション

防災を通して地域とのコミュニケーションを図る

私たち木耐協は1998年の組合発足以来、
木造住宅の耐震化に特化して活動してきました。
「日本では大地震がいつどこで起きても不思議ではない」
誰もが理解していますが、どれほどの対策がなされているでしょうか。
住宅関連事業者である私たちにできることは何か・・・

それは、
「事前防災で地域に貢献すること」
地域の皆さんと一緒に防災に取り組んで、
真の地域密着企業になりましょう！

日本木造住宅耐震補強事業者協同組合

理事長 小野 秀男

地域防災ステーション宣言

- 一、情報発信することで、地域と共に防災力を向上します
- 一、人々が集まりやすい場を作るため、日頃から近隣とのコミュニケーションを図ります
- 一、自らが救助される側にならぬよう準備します

「地域防災ステーション」とは？

“耐震”に次ぐ新しいコンテンツとして全ての組合員様にご利用いただける、事前防災で地域での存在意義を確立するためのツールです。

日頃からお客様や近隣住民の皆様へ防災関連情報を発信し、地域の皆さんと一緒に防災力向上を図ることで、地震以外にも多発する自然災害に備えます。

また、この活動を通じて地域で自社の認知度を向上し、様々なご相談がいただける関係を築いていきます。

なぜ木耐協が「地域防災ステーション」の取り組みを始めるのか

災害に強い
地域を増やしたい
という想い

地域で耐震事業を進める工務店・リフォーム会社である皆様は、まさにその拠点として存在すべきであると考えます。“耐震”から少し範囲を広げて“防災”力をアップし、近隣へ情報発信をすることで災害に強い地域づくりを進めていただきたいと思えます。

工務店・
リフォーム会社の
新しい魅力づくり

大手メーカー系やインターネット系リフォーム会社のリフォーム事業参入が進む中で、地元の中小企業が存在していくために、この「地域防災ステーション」が必ずお役に立ていただけます。

「地域防災ステーション」のねらい／ランチェスター戦略の第1法則

中小・零細企業が大手企業に勝つには、ランチェスターの第1法則以外にありません。それは、「局地戦・接近戦・1対1」戦略と言われるものです。例えば自社から半径1km(歩いて10分強)の中で自社の認知度を徹底的に高め、日頃から好意を持ってもらいリフォームの事業者として選んでいただくことで、その地域の中から年間2億円を受注しましょう。

その為にまず行うべきことは、自らの得意分野での地域貢献。「地域防災ステーション」は、私たちの日頃の「想い」や「思想」を具体的に地域住民に伝える、新しい「社会貢献型企業戦略」の第1歩です。



徹底的な認知度UP ▶ 存在意義の確立

存在意義確立の
具体的な
5つの行動

1. 自社の前にのぼりを出す
2. 「地震防災ガイドブック」を近隣へ配布する
3. 毎月、防災関連ニュースを配布する
4. 一般家庭では用意しにくいモノを備蓄する
5. 地域の防災訓練に参加する



地域防災ステーションとして行っていただきたいこと

1 近隣への情報発信

▶▶ 始めに、近隣へ防災関連情報を発信しましょう。今回作成した「地震防災ガイドブック」の配布や、定期刊行物・自社イベントでの告知、防災イベントの実施等も有効です。このような活動を知っていただくことで、近隣とのコミュニケーションを図りましょう。



2 自社の防災力アップ

▶▶ 木耐協では「地域防災マニュアル」を作成いたしました。これは、企業としての防災力を高めるために必要な心構え・備え、さらに非常時にどのように行動するか等をまとめた冊子です。まずは貴社の皆様で内容を確認いただき、最低限の知識を身に付けましょう。



3 自社での備蓄

▶▶ 備蓄というと「水・食料」を頭に浮かべる方が多いと思います。しかし、地域防災ステーションとしての備蓄の最優先は「非常用電池・トイレ」です。優先順位の高いものから揃え、いざという時に、近隣の皆さんの拠り所になれるような準備をしましょう。また、組合の推奨備蓄パッケージもご利用ください。

大規模災害時に困ること

▶▶ 情報が入手できなくなる／非常用電池の確保

ライフラインが断絶し停電すると、“情報”が途絶え現状把握や他者との連絡が行えなくなります。そのような時にテレビ・パソコンを継続利用でき、スマホ・タブレットが充電できれば情報が途絶えることはありません。

また、被災地にも夜がやってきます。そこで大きめの照明を確保するためにも、電源確保が必要です。

▶▶ トイレの水が流れない／非常用トイレを多めに準備

水・食事がなくても人は1日に5～6回の排泄が必要になり、我慢すると体調を崩してしまいます。避難所開設や仮設トイレの設置にも時間がかかるため、多めにトイレを準備することが重要になります。